

いるのを見た。この甘味は果糖と二、三の単糖類であるらしいことを調べた(当時はペーパークロマトとかガスクロマトなどの武器がなかった)。

6. とにかくアマモ焼酎をつくってみたい。そのほかに、ハスの実、れんこん、くわい、ジュンサイなどでも試してみたい(違法にならぬように)。

7. 私の関心はあくまでも、生物を原材料(初発資材)として造られるアルコール飲料のこと。すでにでき上っているおサケ類へ、あとからいろんな生物体を投入(漬け浸す)したもの(私は二次酒とよぶ)は、全く別のこと。いわゆる果実酒(梅酒など)とか薬酒、マムシ酒、ましてやお酒へ鉍物質を入れた(金粉酒の類)ものには、さしたる興味なし。

「二次酒」は、投入したもつからアルコールに溶出してくる物質に気をつかう必要がある。果実酒は家庭で簡単に作られている(違法ではないらしい)。市販の果実酒の中には、宣伝文に一次酒なのか二次酒なのかアイマイな表現のものもある。

私は、焼酎へいろんな水草の実や植物体部分を漬けたことがある。れんこん(地下茎)と、くわい(塊茎)でためしてみたことあり。

8. 水草を原材料としたおサケ(じょう造酒でも、じょう溜酒でも)をご存知のお方はご一報下さらば幸い。

○第8回全国集会の御案内

日時 1986年8月2日(土)~3日(日)

場所 福島県耶麻郡北塩原村 裏磐梯国民休暇村

詳しい御案内、参加申込書などは次回の会報に同封します。

○会員移動

<新入会>

[Redacted text]

<住所変更>

[Redacted text]

<退会> [Redacted text]

訃報 天野鉄夫氏、釘嶋善治氏
謹んで御冥福をお祈り致します。

○釘嶋善治先生を悼む(大滝末男)

本会会員の釘嶋善治先生は、去る10月6日肝不全のためお亡くなりになりました。享年55歳。先生は福岡県で、小学校の教頭半ばで健康を損ねてご退職された。在職中から野草のスケッチに興味をもたれ、過去10余年間に植物画家として、いよいよ頭角を發揮され、将来が属望されていた矢先きだけに、まことに残念である。先年、新種のセタカミズオオバコの調査(本誌11号)で、多大なるご協力をいただいた私は、先生のお元気な姿を思い浮かべ、深い悲しみを禁じえません。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

○会費納入のお願い

61年度会費(3,000円)の納入をお願いします。過年度分(58年-2,000円、59・60年-2,500円)未納の方は、合わせて御送金下さい。

送金先 振替口座 神戸 7-13829

水草研究会

退会される方は、必ず事務局まで御一報下さい。

○投稿のお願い

水草に関するさまざまな原稿をお待ちしています。ふるって御寄稿下さい。

原稿の送り先

〒657 神戸市灘区鶴甲1-2-1 神戸大学教養部
角野康郎宛

別刷が御入用の方は、その旨お知らせ下さい(50部以上、実費著者負担)。

水草研究会会報 No22 (1985年12月)

[Bulletin of Water Plant Society, Japan]

発行 水草研究会(神戸市灘区鶴甲1-2-1)

神戸大学教養部生物学教室内)

編集 角野康郎

印刷 中村印刷株式会社

(神戸市灘区友田町3-2-3)